

キリストの聖体

2014.6.22

ヨハネ 6・51-58

今日の聖書と典礼の表紙を見るとキリストの聖体と記されています。私たちが慣れ親しんできた言い方では今日のご聖体の祝日です。今日の9時半のミサでは小学校2年生になった4人の子供たちが初聖体をいただきます。大きな緊張と喜びに包まれて初めてイエス様のご聖体をいただくこの子供たちが、これからの長い生涯にわたって、今日はじめていただくご聖体の味を忘れないでいてくれるよう祈りたいと思います。今はまだ、イエス様のご聖体は甘くて、おいしかったというような感想しか表現できないかもしれませんが、彼らが生きて行くこれからの人生の様々な日々の中で、聖体が真に甘いもの、おいしいものとなって、彼らの人生を支えてゆくことを切に祈りたいと思います。この聖体の祝日に子供たちの初聖体を祝う共同体のメンバーである私たち一人ひとりも聖体の食卓であるミサこそが、私たちの人生の旅路の糧であることをあらためて確認し、味わいあいたいと思います。

旧約聖書の出エジプト記は荒れ野の道を行くイスラエルの民が、主なる神が与えてくださったマンナを食べて飢えを満たし、約束の地への旅を続けることが出来た物語を伝えています。新約のヨハネ福音書でイエスはこの旧約の物語を人々に想いおこさせながら、「私が天から降ってきた生きたパンである。」と宣言されます。最後の晩餐の席では、「取って食べなさい。これはあなた方のために渡されるわたしのからだである。」と言われ、聖体の秘跡を制定してくださいました。「わたしは世の終わりまでいつもあなた方とともにいる。」と言われたイエスが目に見えるしるしをもってここにいてくださいます。しかもそのイエスは私たちを生かす日々の糧として、ご自分のいのちの全てを私たちのために与えてくださるのです。私たちの死すべき体のうちに聖体のイエスはいのちそのものとして今日も来てくださるのです。私たちの人生の旅がどのような局面に遭遇しようとも、あらゆる局面を打ち破って永遠の約束の地を目指して再び歩みだすことが出来る力を、私たちはイエスが与えてくださるいのちの糧に満たされることによって回復することが出来るのです。

今日の「聖書と典礼」の裏表紙には、今日のミサの中で司祭によって唱えられる叙唱のことばが掲載されています。そこには次のようなことばが響いてい

ます。

「永遠の祭司キリストは、ご自分を救いのいけにえとしてあなたに捧げ、唯一永遠の奉献を全うされました。キリストのことばに従ってわたしたちはその記念を行い、いのちのパンと救いの杯を受けて、主が来られるまでその死を告げ知らせます。」この叙唱の前半部分は、新約聖書のヘブライ人への手紙に示されている、イエスの十字架についての最初の教会の信仰による理解を伝えています。そこでは、イエスは永遠の祭司と呼ばれています。旧約聖書における神の民の祭司は、いけにえの祭儀をささげて、人々のために神にとりつぎの祈りをし、人々のために神の祝福を祈る、神とイスラエルの民の仲介者でした。イエスが永遠の祭司と呼ばれるのは、イエスが十字架上でご自分自身を人々の救いのためのいけにえとしてささげることによって、旧約のイスラエルの祭司たちが完全には果たすことが出来なかった神と人々との仲介の務めを、永遠なる神のみ前でただ一度で成し遂げてくださったからです。最後の晩餐の記念としてミサのたびごとに私たちがささげる聖体のパンとぶどう酒は、私たちが神のいのちに繋ぐために自らをいけにえとしてささげられたイエスの体と血を指し示しているのです。

「これを私の記念として行いなさい。」とのイエスのことばに従って、今日も私たちはイエスの体と血そのものであるいのちのパンと救いの杯をささげて、今や、神のみもとで永遠の祭司となられたイエス・キリストともにこのミサをささげているのです。

先ほどの叙唱の後半のことばは、コリントの信徒への手紙のパウロのことばを写しています。イエスの体と血であるいのちのパンと救いの杯に与るとはどのようなことなのか、パウロはそれを主が来られるまで、つまり世の終わりに至るまで、イエスの十字架の死を告げ知らせることであると言っています。

私たちがミサにあずかり、聖体を拝領するのは自分が生きてゆくためのいのちの糧をいただくだけのことではないと、このことばは言っているようです。

教会のミサにあずかり、聖体を拝領することはカトリック信者としての私たちの最も大切な信仰の行為です。なぜなら、ミサにあずかり、聖体をいただくたびに私たちはイエスの十字架の死を告げ知らせる者たちとされているからです。イエスの死を告げ知らせるとは、あのイエスの十字架のいけにえによってもたらされた神のゆるしと救いを信じ、その信仰によって、この世を生きる自分たちの生を支えている者であることを自分自身と人々に証しして行くことです。そしてまた、イエスの死を告げ知らせるとは、イエスの十字架の死が結局

は、ほかの全てのもとと同じようにイエスの全てを終わらせてしまい、過去のもとしてしまったのではないということ、すなわち、イエスの復活を告げ知らせることで。イエスが与えてくださる、イエスの体と血であるいのちの糧と救いの杯を受けるわたしたちは、死の暗闇を打ち破って復活されたイエスに招かれて、今すでにこの世の生の只中で、この世の苦しみに満ちた生の彼方に、復活されたイエスとともに天の食卓を囲む永遠のいのちの保証をこの身にいただくのです。この世にあるもの、この世に生きるものは全て過ぎ去ります。この世に生きるものが逃れることの出来ない根源的な虚無感を打ち破るいのちの賛歌を、私たちはイエスが招くイエスの食卓を囲むことによって、ともに歌うものたちとされたのです。今日イエス・キリストの聖体の祝日に、私たちの信仰を新たにし、このミサをささげて、イエスがその十字架の死と復活によって開いてくださったいのちの賛歌をともに力強く歌いたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高